

令和元年度 科目名（科学と人間生活）

1 対象年次、単位数、使用教科書

1～4年次 必修 2単位

使用教科書：啓林館 科学と人間生活

2 科目の目標

自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な物事・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

3 評価規準（何を評価するか）

スクーリングに取り組む姿勢を考慮し評価する。

0～7時間は1とする。（単位認定はしない）

4 評価基準（どんな方法で評価するか）

上記レポート目標の基本的な部分のみ理解されている場合は、理解度に応じて評価2～3、標準的な部分まで理解できている場合は評価3～4、発展的な部分まで理解できていると判断される場合は評価4～5とする。基本的な部分が理解できていない場合は再提出とする。なお、標準的・発展的な部分でさらに理解を深め、再提出した場合は評価を上げる場合もある。

5 試験範囲と試験による評価基準

R1～R3の範囲で7月試験を、R4～R6の範囲で10月試験をR7～R9の範囲で1月試験を実施。試験内容はそれぞれ基本的な部分から約40%、標準的な部分から約50%、発展的な部分から約10%を出題する。29点以下については再試験とする。再試験問題は基本的な部分のみを出題し、30点以上を合格とする。

再試験を繰り返してもなお基準点(30点)に達しない場合は1とする。（単位認定はしない）

6 スクーリングの目標・内容・計画

スクーリングの内容は、「理科の興味を持つ」「考える力をつける」「自分の意見を伝える」の3点を目標としながら、以下の点を柱として実施する。

- ・教科書、レポートだけでは伝えきれない興味深い内容の学習。
- ・レポートの内容でつまずきの多い箇所の説明、および個別の質問への応答。
- ・自学自習のみでは不十分になりがちなので、スクーリングを通して学習支援する。

シラバス（学習内容、年間指導計画および評価規準・評価基準）

R	項目	内容	教科書	時期
1	基本的な語句、法則の理解。 生命の科学。	植物の生育、動物の行動及びヒトの視覚と光のかかわりや様々な微生物の存在と生態系でのはたらき、微生物と人間生活のかかわりについて理解する。	13～60	5月中旬
2	基本的な語句、法則の理解。 物質の科学	身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質や身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途と資源の再利用について理解する。	61～108	6月上旬
3	基本的な語句、法則の理解。 光の性質	光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解する。	109～133	6月下旬
4	基本的な語句、法則の理解。 熱の性質	熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について理解する。	134～150	7月下旬
5	基本的な語句、法則の理解。 身近な天体と太陽系における地球	太陽や月などの身近に見られる天体と人間生活とのかかわり、太陽系における地球について理解する。	151～171	8月下旬
6	基本的な語句、法則の理解。 自然景観と自然災害	身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動と関連づけて理解する。	172～192	9月中旬